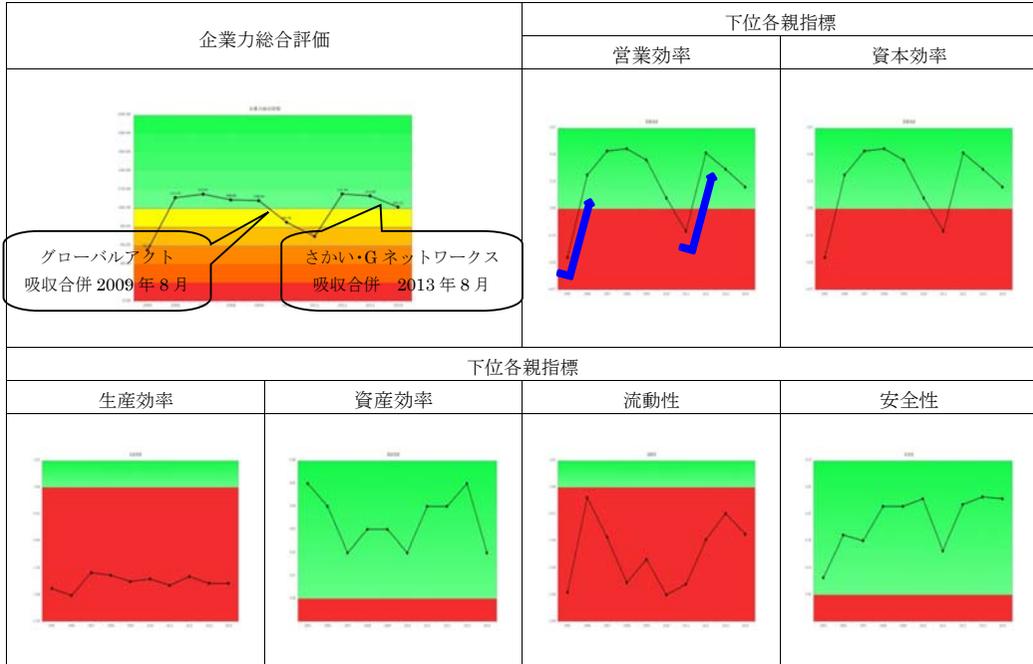


今回は、株式会社ジー・テイストを分析しました。外食事業では「平禄寿司」(回転寿司)、「とりあえず吾平」「村さ来」「アントニオ猪木酒場」(居酒屋)など、自社ブランド 43 業態、約 700 店舗を展開しています。また、英会話学校 NOVA、GEOS や、学習塾 ITTO 個別指導学院などのフランチャイズ加盟店にもなっています。

2014 年 3 月期までの 10 年間で分析しました。(2014 年から連結)



企業力総合評価は、55 → 111 → 114 → 108 → 108 → 84 → 69 → 115 → 113 → 101 と推移しています。60 ポイント以下は赤信号領域なので、2005 年と 2011 年は厳しい状況でした。

営業効率(儲かるか)も、2005 年 2011 年は赤信号領域です。2005 年当時は平禄株式会社として回転寿司店を展開していましたが、業績は低迷していました。しかしその翌年、急改善しました。その後 2009 年に(株)グローバルアクトを吸収合併して、2011 年まで悪化、翌年に一気に改善。その後 2013 年に(株)さかい、(株)ジー・ネットワークスを吸収合併してまた悪化。吸収合併→悪化→急改善の繰り返しです。資本効率も同様です。

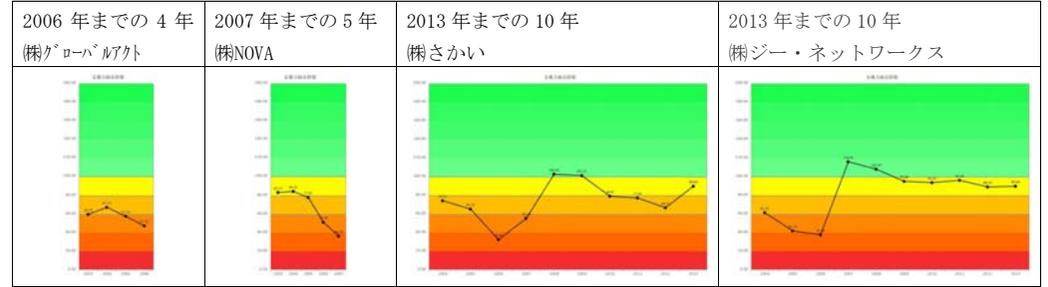
生産効率(人の利用度)は赤信号領域にはまっています。飲食業はどうしても数値が悪くなります。

資産効率(資産利用度)は大きく変動しています。これは吸収合併の影響です。

流動性(短期資金繰り)も飲食業は数値が悪くなります。売掛債権や棚卸資産がほとんどなく、現金預金が少なくても経営できるからです。安全性(長期資金繰り)は上下しながら改善トレンドです。

(株)ジー・テイストは、業績の良くない会社を引き込んでいきます。以下は吸収合併した会社と NOV A の企業力総合評価です。

- ・(株)グローバルアクト(「ちゃんこ江戸沢」など)・(株)NOVA・(株)さかい(「焼肉屋さかい」)
- ・(株)ジー・ネットワークス(「おむらいす亭」など)



業績の悪い会社は低コストで入手でき、規模拡大には効果があります。そのような会社を取り込んで、一時的に経営を悪化させても、底を打って一気に急改善させる。そういうことが得意のようです。良いときで企業力総合評価が 110 ポイントくらいなので、少し悪化するだけで黄信号領域に落ちてしまいます。もっと力を蓄えて安定してからにしてはどうか、という考え方もありだと思いますが、これが(株)ジー・テイストのやり方のようです。

最後に営業効率の各下位指標を示しておきます。2013 年までは個別財務諸表、2014 年は連結財務諸表です。

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
	単位: 千円・%									
売上高合計	10,349,721	12,120,649	12,858,566	14,050,840	13,429,325	15,966,552	17,197,104	16,901,523	15,503,770	23,737,497
売上総利益	6,015,131	7,225,444	8,030,064	8,971,646	8,579,312	10,441,378	11,223,819	11,025,407	10,076,245	15,275,949
売上高総利益率	58.12%	59.61%	62.45%	63.85%	63.88%	65.40%	65.27%	65.23%	64.99%	64.35%
営業利益	▲299,892	451,676	853,864	964,630	596,198	263,657	▲198,998	1,172,196	774,748	846,833
売上高営業利益率	▲2.90%	3.73%	6.64%	6.87%	4.44%	1.65%	▲1.16%	6.94%	5.00%	3.57%
経常利益	▲268,683	517,877	1,080,005	1,123,548	786,528	401,260	▲75,325	1,120,630	730,066	832,193
売上高経常利益率	▲2.60%	4.27%	8.40%	8.00%	5.86%	2.51%	▲0.44%	6.63%	4.71%	3.51%
当期純利益	▲667,649	119,636	717,890	1,021,224	34,437	292,475	▲2,700,494	794,645	127,978	659,443
売上高当期利益率	▲6.45%	0.99%	5.58%	7.27%	0.26%	1.83%	▲15.70%	4.70%	0.83%	2.78%

## まとめ

(株)ジー・テイストは、企業力はそんなに高くないけれど、V字回復させる活力をもった会社で、業績の悪い会社をM&Aで取り込んで、会社を大きくしていこうとしていることがわかりました。経営分析をして、タイムリーに、小さな変化をとらえることが大切である一方で、長い目で、大きな傾向をとらえることも大切です。

**編集後記** 長い目で見てください。

**文責MS**

〒556-0005 大阪市浪速区日本橋 4-9-21 SARUKIビル 4F 猿木真紀子税理士事務所  
Tel. 06-6631-4570 Fax. 06-6631-7970 info@saruki-tax.jp http://www.saruki-tax.jp